

医師臨床研修指導ガイドライン改訂に伴う当院検査部の研修医指導への取り組み

◎小林 保彦¹⁾、吉田 貴典¹⁾、榎本 奈月¹⁾、奥山 翔太¹⁾、村田 茜¹⁾、赤坂 詩織¹⁾、武川 明香里¹⁾、安藤 恭代¹⁾
社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院¹⁾

【はじめに】医師臨床研修制度に「基本的な診察能力を身に着ける」という基本理念がある。当院では、2005年より臨床研修指定病院の指定を受け、初期研修医の受入れを開始した。同年に「新医師臨床研修制度における指導ガイドライン」が公表され、これを基に初期研修医の研修内容を作成して利用していたが、2020年にガイドラインが改訂され、研修内容の変更へと着手した。研修内容変更と現在の研修医受入体制について報告する。

【過去の研修内容】従来、入職直後に静脈採血、検体系検査（血液像、尿沈渣、生化・血算・凝固検査の測定機器説明）、輸血系検査（血液型、クロスマッチ）、細菌検査（グラム染色、抗酸菌染色、結核菌PCR測定）の研修を1日で行い、その後各診療科のローテーションで超音波検査（心、腹、FAST）の研修を2日ずつ行っていた。行った研修に対して指導医や医師リクーターに研修レポートを提出していた。

【改訂した研修内容】改訂されたガイドラインでは、研修医自身の実施を到達目標として、血液型判定、クロスマッチ、心電図、動脈血ガス分析が設定されているため、研修内容に動脈血ガス分析、

心電図を追加した。また、新たな取り組みとして2年目研修医に向けて、細菌検査と超音波検査をより深く学ぶことを目的とした研修内容を追加した。

【活動の成果】2021年度は、COVID-19により初期研修医の研修は他部門では行われなかったが、検査部の研修内容が確定していたことより必要性が認められ、受け入れることができた。2年目の研修医に対しては、2021年9月にグラム染色の追加研修の受付を開始し、10月に1名の研修希望を受けた。これは外部施設では医師自身でグラム染色から抗菌薬選択を行うことから外部研修の前に習得する必要があると、診療への貢献に繋がった。また、過去の研修医教育への関わりから2022年度の初期研修医マッチング面接に検査部から参加する事になった。

【まとめ】研修医の臨床研修対応は病院としての重要な役割の1つであり、マッチングに同席出来た事は過去の研修受入れの最大の成果である。また、臨床現場では検査に対する相談が寄せられることも多くあり、検査技師が研修医教育に関わる有用性を感じている。

連絡先 04-2953-6611